

多くの方の信頼を得て、 ピンチをチャンスに



株式会社エイワ
(釜石市)
代表取締役社長

佐々木 強

当社の歴史

はじめに、自分の考え方を話すうえでその基となった当社の歴史についてお伝えいたします。

当社は、私の父で現会長の佐々木政治がサラリーマンをやめ、1978年2月にFRP（繊維強化プラスチック）の成形加工工場として「鉄と魚のまち」の当地で創業し、現在はFRP事業部・建築事業部・金属事業部の3本柱にて事業を営んでおります。

FRPとは、エポキシ樹脂やフェノール樹脂などの樹脂（プラスチック）にガラス繊維や炭素繊維などの繊維を複合して強度を向上させた強化プラスチックです。安価で軽量、耐久性があることから、ユニットバスや浄化槽などの住宅設備機器をはじめ自動車・鉄道車輛の内外装のほか小型船舶の船体にも多く使用されています。

当社も創業当初は、釜石市内のFRP船の

製造企業様より仕事を頂き、従業員5名でFRP船の部材を成形するFRPの製造加工工場としてスタートしました。

しかし、既に海洋漁業は排他的経済水域いわゆる200カイリ問題等で厳しさを増してきており、FRP成形加工技術を生かしながら、FRP船の成形加工から徐々にごみ焼却場の焼却タンクや浄水場の浄化タンク、民間企業の各種薬液貯蔵タンクなどの耐蝕FRP製品の成形加工に主業務を変更し、1989年6月には、現唐丹工場を新築増築して、その新規受注に注力してまいりました。

さらに、その当時、夏場に仕事がなくなる状況が多くなってきたことから、夏場の仕事確保のため、FRP加工技術を生かした防水・塗装業務を開始し、その後は防水・塗装技術を生かして1993年に建設・防水工事事業許可を、2003年には塗装工事事業の許可を取得し、FRP部門と建築部門の2本柱での事

業体制を確立しました。

その間、1992年9月に資本金を1000万円に増資し、会社名も、有限会社唐丹エフ・アール・ピーから株式会社エイワに改称、2000年10月には第2工場を市内平田に新築し、現在の当社の特徴でもある耐蝕FRP製品の大型物件の製作を全国に向けて開始いたしました。また、2006年には第2工場を増築して本社工場を唐丹工場より移転し、FRP・建築事業の業務を拡張しております。

そして2011年3月、東日本大震災が発生しました。従業員の中には被災した従業員もいましたが、3工場は被災を免れ発生後1週間で工場を再開しました。その後、復興需要を見越し、瞬間硬化コーティング工法による工期の短縮を図ったほか、1級建築士の採用により建築工事（全般）の受注及び個人住宅の設計施工を開始し、2014年に特定建

設業の許可を取得しました。

一方、当地では近代製鉄業発祥の地としての歴史を生かし、高付加価値な金属材料の新素材開発を目的とした産学官連携による研究が行われており、当社は2007年4月、釜石エリア生体材料事業化研究会の事業主体企業となり、2010年に金属事業部を開設し工場を新設しました。工場では研究から生まれた新素材のコバルト合金「コバリオン」の生産を開始し、2012年4月、コバルト合金丸棒の国産としての初出荷を行いました。2014年には経済産業省の先端技術実証・評価設備整備費等補助金に採択され量産へ向けた設備として加熱炉・100 kg溶解炉を導入し、人工関節用、金属入歯用、裝飾品用の素材として供給を開始しております。

ピンチとチャンス

会社を経営する上で色々な事が発生して来るとは思いますが、それをどのように捉え、どのように対応していくかが大事だと思います。

当社は、現会長の脱サラをきっかけに始まり、ある程度順調に進んでいく中で仕事を頂いていた企業様の倒産、船作りから耐蝕製品作りへの転換、夏枯れ対策としての防水工事へのチャレンジ、現本社工場の新設・増築と大型製品へのチャレンジ、金属事業への参入、リーマンショック、東日本大震災、建築全般工事への参入等、数年に一度は社運を掛けた

勝負をしまいいりました。全ては会長の誠実さと前向きな気持ちでピンチをチャンスに変え、多方面の色々な方々の協力を頂きながら解決し、会社を発展出来たものと思います。自分としては、お客様・取引企業様・従業員・地域の色々な方との結びつきの中で、これからもその方々との信用と信頼を勝ち取って行かなければならないと考えており、自分

自身も日々成長していけるようにしたいと思います。

今後について

当社は今年で創業41年になります。自分が社長になって2年が経ちますが、これまで人脈作りと会社の組織作りを中心に据えて、経営を進めてまいりました。会社が継続し、会社にとって必要な存在であると認められ続けるためには、お客様に満足して頂くこと、満足して頂くサービスを組織として作りだして提供し続けて行くことが大切だと考えております。創意工夫を重ね、常に品質向上に努力出来る組織、そこには自分自身で考え行動できる人間、自立した人間、自立できる人間がいるはずで、自社の発展は物づくりを通して人作りによって実現されるものだと思うのです。

復興需要もピークを過ぎ今後、3事業部ごとに状況は異なりますが、厳しい状況が待ち受けていると思います。働き方改革や従業員の確保などの課題もありますが、社員一丸となって、「エイワ【力】」（エイワリョク）を発揮し、社長である自分が先頭に立ち、事業の発展に尽くしていきたいと考えております。

最後になりますが、社員やその家族・子供達に愛される会社、地域社会の中で誇れる会社になれるように努力していきたいと思っております。



当社施工による耐蝕FRP浄水施設